2020 年 8 月 7 日

令和 2 年度障害者芸術文化活動普及支援事業
奈良県の障害のある人のアート活動への新型コロナウイルスの影響に関する調査
アンケート結果概要

近畿ブロック広域センター　障害とアートの相談室
（一般財団法人たんぽぽの家）
大井卓也

アンケートに関して

本アンケートは、新型コロナウイルス感染症が奈良県の障害のある人の表現活動にあたえた影響に関して調査するために実施したものである。

アンケート対象は奈良県内の障害者福祉事業所と、奈良県内で活動している障害のある作家とし、2 種類のアンケートを行った。アンケート期間は 2020 年 6 月 15 日～7 月 3 日。アンケートの方法はグーグルフォームを用いたウェブアンケートとした。

アンケートの周知に関しては、弊法人のホームページや SNS 上で告知を行ったほか、奈良県障害福祉課の協力のもと、奈良県内の障害者福祉事業所にメールにて広報を行った。また、過去に弊法人が実施した公募展などのイベントに参加した障害のある作家や、施設職員などに向けても個別にメールを送り、回答を依頼した。

I.施設むけアンケートの結果

□回答数

・ 46 件

※　回答は 48 件あったものの、うち 2 件は奈良県外の施設からの回答だったため、本分析では無効とした。

□回答内容（一部省略）

（1）施設で行っているアート活動の種類

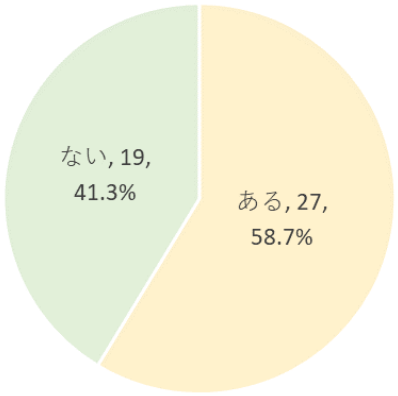
絵画	彫刻	織物	陶芸	版画	音楽	ダンス	演劇
37	4	13	9	0	16	13	2

その他の回答								
書道	クレイクラフト	語り	木工・クラフト	手芸	紙漉き	切り絵	折り紙	段ボールアート
4	1	1	2	2	2	1	1	1

（２）新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、施設でのアート活動に影響はあったか

・　ある（活動を休止した、やり方を変えて実施している、など）：27（58.7%）

・　ない（これまで通りに続けている）：19（41.3%）



※　ただし、「ない」と回答した施設であっても、その後の設問の中で「音楽ボランティアの訪問がストップしてしまった」、「展覧会などの催事を中止した」、「毎年応募していた公募展が開催されるのか不安」など、多少の影響を感じている施設が３件あった。

（３）（「ある」と答えた方へ）具体的にどのような影響があったか、またその理由

〇回答の種類と件数

回答の種類	件数
①展示会、発表会などのイベントの中止	12
②ソーシャルディスタンスを保つために活動を縮小・休止した	12
③外部からの講師や、家族を施設内に入れられないため、活動を休止した	10
④障害のある人の行動範囲が制限され、創作活動に影響を受けた	4
⑤施設自体が休所した	2
⑥歌やダンスを休止した	2
⑦利用者の自宅待機、施設の利用控え、不安による体調不良などにより活動の頻度が下がった	2
⑧施設内での分離などによりアート活動を行えるスタッフの確保が難しくなった	1

※　本項目は自由記述による設問だったため、次ページのように様々な回答が寄せられた。そこで、質問の内容を精査のうえ、上記のような簡単な分類を行った

※　また、本設問とは別の設問の中でも、アート活動に関する影響を記述した回答もあったため、それらもこの分類の中に含めることとした

※　上記２点に関しては、これ以降の項目における「回答の種類と件数」の表においても同様

〇具体的な回答

※　簡単な誤字の修正や、個人の特定につながる情報を伏せるなど、若干の編集を行っている。また、「特になし」といった回答は省いた。これは、これ以降の項目における「具体的な回答」においても同様

・　３密を避けるため活動を自粛していた期間があった。現在は３密にならない工夫をして活動を再開した。
・　音楽療法は外部の先生を招いて行っています。緊急事態宣言時は外部の方の施設への立ち入りを控えて頂いたのでその期間は中止していました。
・　講師に課題を用意してもらって、郵送して自宅で絵を描くなど。音楽の課題をビデオで配信する。
・　活動指導いただく先生については外部から来られること。また活動場所も広くはないので密集機会が生じるため中止の対応をとった。
・　踊りに関しては、密になる為、地域の方との合同練習が出来なくなった。
・　利用控えや不安による体調不良で、来所できなかったり、来所してもそこまでのエネルギーがなく、活動に入れない利用者が多くなり、作業がほとんど進まなかった。
・　活動時間が短縮したり、休止している。外部の講師を招けなくなった。
・　イベントが中止になった。
・　グループワークは避け、個人で行うワーク内容に変更した。
・　ソーシャルディスタンスで考えると制作場所が限られる。
・　３密を避けるため、活動の規模を縮小している。
・　絵画教室の先生や音楽の演奏ボランティアの方にお休みして頂きました。
・　人数を制限して活動している、イベントの中止、など。
・　３密を避ける為、みんなで集まって制作する事を休業中。
・　自宅待機の方が増えたため、園での活動時間が持てなかった。
・　緊急事態宣言がでた時期は施設が休業となり全ての活動が休止となった。展覧会やアート作品のレンタル等、作品を見せる機会が延期になった。
・　３密を避けるために活動の規模を縮小したり、企画した新たなグループ展を中止にした。施設の分離もあるため、アート活動における人員の確保が難しくなっている。
・　メンバーの方の個展を 9 月頃に開催できるよう準備をしていたが、会場が公的な場所だったこともあり中止（仕切り直し）になりました。
・　３密を避けるため、アトリエ（活動場所）を分散しているが、作品や材料を広げる一人当たりの場所が狭くなってしまっている。
・　３密を避けるために活動を自粛した。外部の講師を招けなくなった。
・　３密を避けるため、プログラム内容を変更し、ダンスや歌をうたうプログラムは中止しました。

・　人の交流を最小限に抑えるために、普段は一緒に活動をしている入所利用者と通所利用者の活動スペースを分けていました。そのため、活動場所が居住スペースであったり、違う事業所であったりしたため、普段通りの取り組みが手につかなくなる方はおられました。
・　外部より先生に来て頂いているが、全ての面会を制限したため、クレイクラフト教室の開催が出来なくなった。
・　ご自宅で自粛の場合はご自宅にて創作されたりしていました。
・　外部の講師を招けなくなった（外部接触を避けるため)。空間が狭く密集、密接となってしまうため。
・　通所を休止し、在宅で活動をしてもらう。外部の人が来るイベントは中止になったなど。
・　イベントの延期・中止。

（4）その他の困りごとや、障害のある人への影響など

〇回答の種類と件数

回答の種類	件数
①利用者がストレスを感じていたり、生活に不調が出ている	11
②地域の人などとの交流の機会の減少	5
③収入の低下	2
④創作意欲の低下	1

〇具体的な回答

・　外出が出来ない事で、何事にも集中できにくくなった。
・　音楽ボランティアさんの訪問がストップしてしまい、利用者の方々は残念がっています。
・　楽しみにされていたスポーツ大会が中止され、外に出る機会が減り、ストレスになっている。
・　現在は戻りつつありますが、入所者の週末の自宅外泊・外出も中止していました。また市内のイベントも中止になり、芸術活動での作品の出展がなくなりました。法人が行う秋祭りも外部の人たちを招かずに、内々で行います。毎年作品を展示していたのですが、今年は地域の人たちに作品を見て頂く機会が減る事になりそうです。
・　コロナが怖くて自宅を出ることができない。テレワークで毎日個々に電話やFACETIME を一日 2 回行うとなると、支援員が準備や対応が大変だった。
・　メンバーの中には諸活動を楽しみにされている方が多く、日々の活動内容が限られたためストレス面でのサポートが必要であること。また活動場所が限られているため、一定の距離を保って活動を行うことは困難である。
・　ディサービスをお休みされた方が決まったことができないので体調不良になった

- 地域の人との交流が減った。
- 一人で 1 台を使い作品を作ってもらう形のため、機械を使い終わらないと次の人が作品作りに取り掛かれない。これまで以上に作品を作り終えるまでに時間がかかっている。秋に展示会を毎年行っているが、開催するかどうか悩んでいる。
- マスク着用等が難しい方が多いため、施設内での活動のみとなり、外部の方々との交流が出来なくなった。また、ご自宅への帰省もできなくなり、ストレスが溜まって、活動の展開が出来なくなった。
- 毎年、出品することを意欲として活動されているため目標が立ちにくい。
- 遠方のスタッフの確保。定員に満たない状況で 4 月に施設をオープンしたため、生徒の確保（に影響が出ている）。
- 施設内での活動であるため、影響はない。
- 県の作品展に向けて毎年創作していたが、今回は延期になるのかどうか心配。
- 余暇活動の時間が減ったことにより、利用者のストレスが溜まり、心身への影響が心配である。
- 収入は下がっている。
- 入所利用者様で外出泊・面会の制限により院内での療育活動への集中が逆に高まった方もおられた。ストレス発散に繋がる制作活動を意識している。
- 応募できる公募展が少なくなった。絵画サークルに行けなくなり、ご利用者のご自宅での過ごし方に困っている。その結果、人との交流が少なくなっている。
- 少しずつ元の状態に戻しています。
- 商品を販売するために出展していたイベントがなくなった。その他、夏の季節に合わせた T シャツを販売する企画が中止になる等、商品販売の機会は延期ではなく中止となることが多かったので、売り上げが激減している。秋くらいまでのイベントが中止となっているため 440 万円の赤字がでる予定。
- 病院閉鎖の為、家族の面会が出来ず、家族とともに行っていたアート活動が実施できなくなった。病棟閉鎖の為、行動範囲の制限ができたため、アート活動を行う場所へ行けない、参加できない状況になっている。
- 通所と入所の方の交流が出来なくなり、一緒に音楽活動が出来なくなった。
- いつも出掛ける風景画スケッチの場所が立ち入り禁止になって、暖かな声を掛けてくれる散歩中の地域住民との交流がなくなった。
- 外出や活動内容に制限ができ、利用者様にストレスが生じた。
- 利用者のストレスが溜まっています。
- 公募展のみの出品。地元での展覧会を含む、すべての催事を中止とした。
- 教室が開催できない期間は他の活動に振り替えていたが、再開に向けて新しいテーマを考える等、今できることを考えている。
- 音楽を通じて、自分を表現していた人の機会が減ることがとても残念。発表の機会や、

集団で楽しむ音楽が出来ない事。

・　在宅での活動が上手くいき、活動日や量が増えた人がいた。通う手間がなく、良かった人がいた。

（5）今後、どのようなサポートがあると良いと思うか

〇回答の種類と件数

回答の種類	件数
①発表の機会の提供に関するもの	16
②補助や助成金などの情報提供	10
③感染予防のためのガイドラインの作成	3
④インターネットを用いたコンテンツの提供やサポートなど	3
⑤外部の講師、ボランティアなどの紹介	2
⑥画材の寄付	1

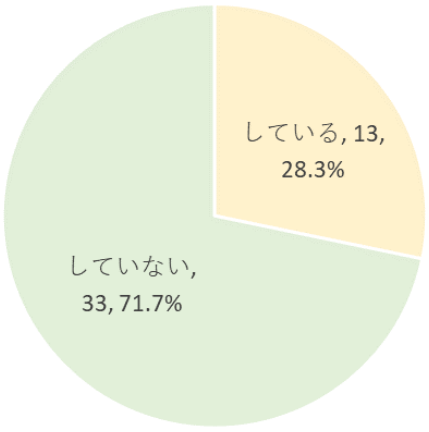
〇具体的な回答

・　いろんな作品を発表できる場が欲しい。
・　感染防止に関するガイドラインがほしい。
・　公募展などはあれば良いかなとは思います。
・　作品を発表できる機会、場所の提供や、宣伝などに使う情報や補助金が欲しい。
・　作品発表の場が多くあればうれしいです。
・　感染防止に関するガイドラインが欲しい。
・　発表の場の案内が欲しい。
・　織りの技術を教えてくれる講師(ボランティア)、道具の購入やメンテナンスに必要な補助や助成金。
・　作品を発表できる機会を作ってほしい。
・　助成金の情報など教えていただきたいです。
・　作品展などに応募することで、入賞することで利用者の生きがいに繋がっているので、気軽に参加できるような作品展を、継続的に開催してほしい。
・　プライベート美術館（奈良県が毎年実施している、障害のある人の絵画作品をまちなかの商店などに展示するイベント）に外食店が例年通り協力いただけそうにないのかと思い、残念。
・　活動を支援してもらえる仕組みや、助成金などの情報があれば教えてほしい。
・　作品の発表の場。
・　福祉職員がアート活動に興味を持てるような入り口があればと思います。
・　国の助成金。
・　下記にあるようなインターネットを活用した取り組みのサポート。

・　障害特性を理解し、活動に繋げやすい様、障害区分別にまとめた活動紹介などインターネットで拝見できるようにしてほしい。
・　アート活動に活用できる助成金の情報を教えて欲しい。作品を発表できるような公募展を開催して欲しい。グループ展を開けるようなギャラリーを紹介して欲しい。
・　気軽に発表できる場があればいい。
・　作品を発表できる機会と、可能であればそれが収入になる機会がほしい。「１企画 20 万円を補助するからそれで１つプジェクトを開催してほしい」等の助成公募があるとありがたい。こんなときだからこそ、他事業所や他分野の方と繋がれる機会がほしい。"
・　たくさんの人に作品を見てもらえる場所、機会があると嬉しい。（家族の面会ができないため、少しでも家族に利用者の方々が元気に作業やアートに取り組んでいる様子が伝わればいいなと思います。）
・　個展やイベントを開催する為の助成金の情報を教えて頂けたらありがたいです。
・　作品発表の機会があれば良い。正に ICT のネットワークに、それぞれの作業場・アトリエがつながれば、刺激と触発の、各作者・作品の相互インスパイア空間が欲しいです。
・　感染予防に関するガイドラインがほしい。
・　まだわからない。
・　画材の寄付や発表の機会があれば嬉しいです。
・　外部講師の紹介・助成金の情報提供。
・　コミュニケーションが大事なところなので、それを直接せずに活動すると、個人になってしまって寂しい感じがしたので、成功例とか教えてほしい。
・　アート活動に活用できる助成金の情報を教えてほしい。

（６）アート活動に関して、インターネットを用いた取り組み（演劇やコンサートの配信、アート作品を紹介するウェブサイトなど）を活用しているか

・している：13（28.3%）
・していない：33（71.7%）



（7）（「していない」と答えた方へ）その理由

〇回答の種類と件数

回答の種類	件数
①インターネット環境に関するもの（設備の不足、扱えるスタッフの不在など）	12
②情報がないことによるもの（そもそもそういった取り組みを知らなかったなど）	6
③他の業務との兼ね合いで、取り組む時間や余裕がない	4
④どのようにすれば良いのか、分からない	3
⑤対象となる利用者がいない、特に必要を感じていない	2
⑥セキュリティや個人情報保護の観点から活用できない	2

〇具体的な回答

- 環境整備が日々の活動でなかなか難しい。情報も少ない。
- 最近、プロジェクタ等の環境が整備され、使用環境を整備中の為。
- 対象となる利用者様がいないため。
- 特に必要を感じていないため。
- 必要な設備等が整っていないため。
- どうしたら良いか分からない。
- 顔出しが NG の方もおられる為、不特定多数の人の目に触れるものには出しにくい。
- 活動内容を知らなかった。
- 取り組む余裕がないため。
- どのようにして良いのか分からないため。
- 環境はある程度、整っているが作品を出品できる情報を知り得ていない。
- インターネット環境が整っていないため。
- 個人情報の関係もあり、情報発信までの活動には至っていない。
- 知らなかった。情報をいただければありがたい。発表の場があれば皆さんの励みになるとおもいます。
- インターネットを活用した取り組みがあるといった情報を知らなかったため。
- パソコンの台数が限られるため。
- 日常の業務の中で見る機会がない。
- 取り組みについて知らなかったです。
- 環境整備をしてこれから進めていく予定。
- インターネット環境が十分でない事もありますが、ICT の活用に組織全体が疎い、その事に長けたスタッフがいない。
- インターネット環境が整っていない為。
- 他の作業に時間を取られている。
- 行いたいと思っているが、他の業務との兼ね合いもあり、まだそこには至っていない。

・　当院でのインターネット環境が整っていないため。
・　不得意なこともあり、踏み込んで調べていないです。
・　支援スタッフにインターネットを活用するノウハウがない。
・　個人での取組みは行っているが、芸術活動としての活用は現状考えていない。
・　知識不足です。
・　新たな取り組みに耐えうるハード面やネット環境が整ってない為
・　私たちの表現やファンが期待されるものに合っていない

（8）その他、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて新たに始めた取り組みや、感染防止のために取り組んでいること

〇回答の種類と件数

回答の種類	件数
①3密を避ける、活動場所を分けるなど、ソーシャルディスタンスに関する取り組み	17
②消毒や換気など、感染リスクを避けるための取り組み	15
③マスクの製造・販売を始めた	4
④通販やオンラインでの療育など、インターネットを用いた取り組み	3

〇具体的な回答

・　手作り布マスクの制作販売。清潔・消毒。外出の注意点のミーティング。
・　密を避けるため、屋外活動を取り入れている。
・　ソーシャルディスタンスを保ちながら活動をしている。
・　ソーシャルディスタンスを考え、教室だけではなく活動できる部屋を広くとって利用者の密を避けている。
・　活動時間の縮小や場所の分散等。
・　手洗い・消毒をこまめにしている。
・　一日に3回施設内を消毒している。
・　換気を心掛けている。消毒回数を増やした。
・　3密にならないように気を付けている。
・　ソーシャルディスタンスを保ちながら活動を検討している。
・　施設内では、ソーシャルディスタンスを取ることは困難であるため、支援者の外部での感染防止を徹底している。
・　オンライン療育。
・　消毒と机の配置。
・　ソーシャルディスタンスを保っている。
・　授産品として、マスクを手作りし販売している。また、3密を避け、利用者、職員ともにマスクの着用や消毒を徹底している。

- グループを細分化し、密を避けた活動を行っています。
- マスク着用やこまめな消毒等々、ソーシャルディスタンスを保ちながら活動をしています。
- マスクを作り始めました。
- 検討中。
- 布製マスクの作成・販売。うがい・手洗いの励行。換気。食事時の対面スクリーンの設置。消毒液の設置。
- 活動の場所の換気ぐらいです。
- 利用者様の障害特性上、インターネット環境の整備が困難な為環境が整っていない。
- 皆で集まることができないから、ご自宅で好きな時間に自由に制作できるように、月 1 回、材料をお届けしている。
- 席の配置を一方向にして活動している。
- グッズの通信販売の強化＆新規商品の開発。3 密をさけた活動。今後新しい仕事を開発するための活動にむけての営業資料の作成。
- アート活動で使用した道具の消毒の回数の増加。利用者が 2 名以上の場合、室内でもソーシャルディスタンスを保つ。 3 名以上は屋外での実施にする。
- 一般的な感染予防の取組です。むしろ教えて戴きたい。
- ソーシャルディスタンスを保ちながら活動している。
- Zoom を使用したプログラムを実施しています。
- 感染症対策のため、居住スペースで過ごす時間が増えたため、同じフロアのメンバーで共同制作（和紙を染めて、大きな貼り絵をつくりました）に取り組むなど、ステイホームゆえに、新たな創作にチャレンジすることが出来たというケースもありました。作品が完成したら施設のみんなが見ることが出来るスペースに飾る予定をしています。
- 入居者と通所者、それぞれ別の空間で活動していただいており、両者の接触は無い。活動後の備品消毒もしている。
- 近日中に再開予定だが、感染リスクの軽減等は引き続き施設のガイドラインに沿って活動していく。
- こまめな除菌と手洗いの徹底。
- 防護服制作・徹底的な消毒・ 3 密を避けての行動。
- 距離とっての活動再開。エリアの消毒など。
- アトリエ内のソーシャルディスタンス　屋外での制作等

II.個人むけアンケートの結果

□回答数

・5 件

※回答は 10 件あったものの、うち 5 件は奈良県外からの回答だったため、本分析では無効とした

□回答内容

①活動の種類
②新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、アート活動に影響はあったか
③（「ある」と答えた方へ）具体的にどのような影響があったか、またその理由
④その他の困りごとや、影響など
⑤今後、どのようなサポートがあると良いと思うか
⑥アート活動に関して、インターネットを用いた取り組みを活用しているか
⑦（「していない」と答えた方へ）その理由
⑧その他、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて新たに始めた取り組みや、
感染防止のために取り組んでいること

［A さん］

① 絵画
② 影響はない
③ ―
④ 美術館観賞に行けなくなった
⑤ 公募展の案内
⑥ していない
⑦ タブレットを持っていないため
⑧ 手洗い、消毒

［B さん］

① 絵画，織物，陶芸，音楽，演劇
② 影響はある
③ 活動の休止、中止
④ 早く活動を再開したいと思っている（なかには再開になった活動もある）
⑤ プライベート美術館（奈良県が開催している公募展）が、期間限定でなく、通年度開催されると嬉しい
⑥ していない

⑦　知らなかったため
⑧　特にない

［C さん］
①　絵画、音楽、ダンス
②　影響はある
③　展覧会が中止になった、通っている絵画教室が休みになった
④　ほとんどの余暇活動がストップしてしまい、時間を持て余している
⑤　絵画コンクールの情報を教えてほしい
⑥　していない
⑦　そういった情報をまだあまり知らない
⑧　―

［D さん］
①　絵画
②　影響はある
③　通っている絵画教室が休みになった
④　余暇の時間が減り、ストレスが溜まっている
⑤　作品を発表する場がほしい
⑥　していない
⑦　そういった取り組みに関する情報が入ってこない
⑧　マスクをしている

［E さん］
①　絵画、版画
②　影響はある
③　かんでんコラボアート（大阪で毎年開催されている公募展）の案内や、毎年行われている奈良での公募展の案内がまだ来ていません（自分が毎年参加している一部のコンクールや展覧会が延期・中止になっているようです。）
④　コロナの影響で再就職が難しくなっており、収入がない状態が続いています。このため将来がかなり心配です。日々の生活にも不安や焦りがつのり、つらく感じる日々が続いています
⑤　自分のアートの技術を生かせる仕事を紹介してほしい。（障害者枠のフルタイムで。）自分が描いてためてきた作品を販売できる機会を与えてほしい。作品を発表できるような公募展を開催してほしい。インターネットを活用した作品の発表・販売をしている所を教えてほしい

⑥ している

⑦ 上の質問で「している」に回答したのですが、気になる事がありますので記入いたします。僕は今インターネット上の suzuri という、自分の考えたグッズを無料で販売していただける所へ作品を登録しているのですが、他にもそういう取り組みをしていただいている所の情報が欲しいです

⑧ 出かける時はマスクをしている。外から帰ってきたらアルコールで手とマスクを消毒して、消毒用の石鹸で手洗いをして、うがい薬でうがいをしている